

山陰教堂 報恩講の様子 (令和2年10月21日)



本願寺山陰教堂における新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組み

本願寺山陰教堂・山陰教区教務所では、演台・事務所カウンターにアクリルボードを設置、各所にアルコール消毒液を設置するなど、感染予防に努めております。

寺婦のひろば

増刊号

山陰教区
寺族婦人会連盟

題字：鷺谷良子

増刊号発行にあたって

山陰教区寺族婦人会連盟委員長 福井 春美

慈光照護のもと、皆さまにおかれましては益々ご清祥にて、ご法義繁盛にお励みのことと存じます。

現在、新型コロナウイルスの感染が拡大する中、生活様式が大きく変わってきています。

そして、各ご寺院におかれまして、法座が開きにくくなり、ご葬儀やご法事の形態も変わり、それぞれ不安をお持ちのことではないかと思えます。

こういった状況ではありますが、久しぶりに開いた法座のあと、「もつと聴いていたかったなあ。」「やっぱりいいなあ、心がほっとするなあ。」と、口々に言いつて帰られるご門徒さんがいらつしやいます。

まだまだ先の見通せない混沌とした今こそ、お寺が必要とされているときではないでしょうか。不

安な日々を過ごしておられる方々のお心に、少しでも寄り添うことができないものでしょうか。

そこで、山陰教区寺族婦人会連盟の皆さまと知恵を出し合い、情報を共有し合いながら、困難な時を乗り越えていきたい——そんな思いから、アンケート調査を行いました。

他のご寺院の思いや活動の様子を知ること、少しでも不安が少なくなれば、また、活動のヒントになれば幸いです。

各組委員の皆さまには、ご多用の中ご協力をいただきました。この場をお借りし厚く御礼申し上げます。

末筆ではありますが、皆さまにおかれましては感染対策を万全になされ、どうぞご自愛くださいますよう念じます。

合掌

山陰教区寺族婦人会連盟 アンケート

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、寺族婦人会連盟各組委員の皆さまに組内の状況や取り組みについてお答えいただきました。

※重複する内容はまとめて掲載しております。また、一部文言を変えた箇所もありますので、ご了承ください。

設問一

今年（令和二年）二月以降の
ご法座の状況をお教えてください

中止した法座・行事

二月	仏婦活動
三月	春彼岸法座（四件）
四月	花まつり、常例法座
五月	降誕会法座、常例法座
六月	植後法座
七月	
八月	盆法座、盆前清掃奉仕、盆踊り、キッズサンガ
九月	秋彼岸法座
永代経法座（三件）	

開座した法座

七月	安居会法座、永代経法座、植後法座
八月	盆法座
九月	秋彼岸法座（三件）
永代経法座（三件）	

報恩講の開座予定

- ・状況を見ながら開座の方向で準備（三件）。
- ・報恩講は開座するが、県外のご講師はお招きせず、住職が勤める。

開座状況

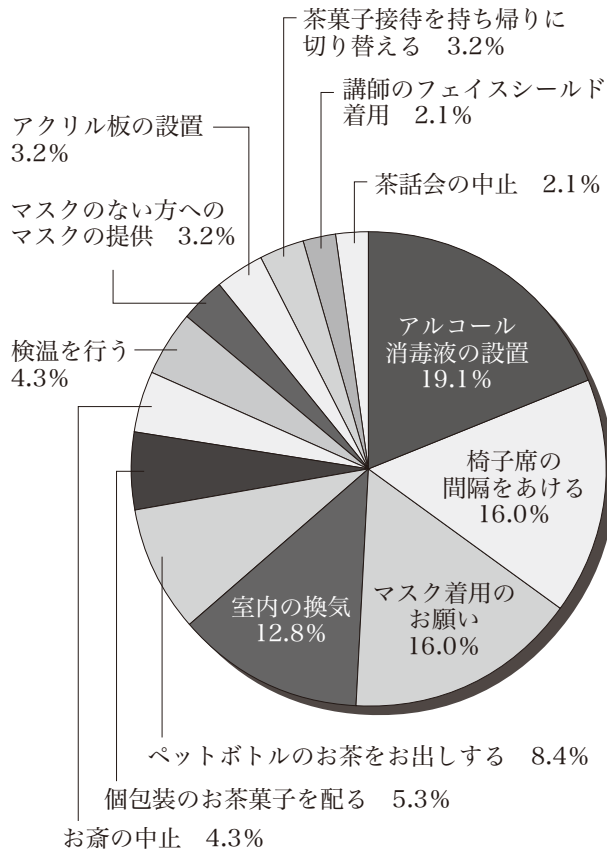
- ・二月以降、すべての法座を中止した。
- ・二月以降も、予定通りに開座。
- ・緊急事態宣言解除後は、お参りと年忌法要のみ。
- ・四月・五月は中止の寺院が多かったが、六月以降は、半日の開座から始めて徐々に通常に戻す努力がされている。
- ・七月以降は、密を避けるなどの対策を行って開座している。

- ・お盆参りは、念のため希望を聞いた。ご自宅へのお参り七割、寺でのお勤め二割。
- ・年四回の法座のうち、三回を中止。一回の法座を日程短縮し、ご法話なしで開座予定。
- ・仏婦の例会・法要などの開催・中止は寺によってまちまち。
- ・仏教婦人会主催の追悼会や飲食は中止し、お勤めとご法話のみ（通常はお茶の時間を設けている）。



設問二

ご法座を開かれている場合、感染対策等はどのようにされているか、お教えください



※複数あったご回答の割合をグラフ化したものです

内容

飲食

- ・宗派のガイドラインに基づき感染予防対策を行って開座した。
 - ・お勤めの後、簡単な感話・法話で終了。
 - ・法要のみ。法話の代わりに冊子を配布。
 - ・お経を短いものに変更。休憩・法話も短時間とした。
 - ・お約束していた講師をお断りし、住職が勤める。
- 飲食
- ・一つのテーブルを囲んでの飲食や会話をやめる。
 - ・仕切りを設置し、一つの机に二人ずつとした。

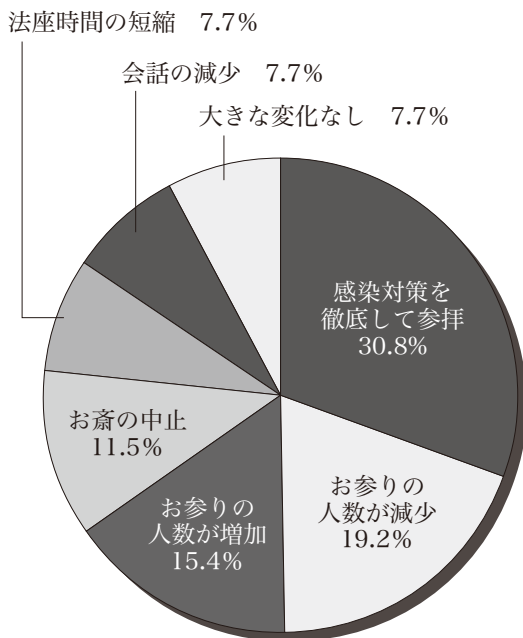
衛生面

健康管理

- ・仏婦会員による手づくりマスクを参拝者全員に配布。
 - ・お手洗いに石鹸とペーパータオルを設置。
 - ・お手洗いの掃除を行い、消毒液でドアを消毒。
- 健康管理
- ・「体温の高い人、体調の悪い方は法座に来られることを御遠慮ください」という内容で本堂に張り紙。
 - ・非接触体温計を使用。
 - ・受付で、住所・氏名・体温を書いてもらう。

設問三

ご法座を開かれる場合、これまでと比べ、変化したことや違ってきたことがありますしたら、お教えください



※複数あったご回答の割合をグラフ化したものです

法座内容の変化

・今までは、法座後、仏婦の方が作ってくださった料理を取り分け、談笑してもらっていた。それを取りやめ、パック詰めにし、持ち帰っていただくことにした。

・事前に連絡し、報恩講のお参り合いのご寺院を三ヶ寺に限定した。

・お茶やお菓子など、飲食を中止し、お茶のペットボトルを配った。

・県外のご講師をお断りした。

・十月開座予定だった報恩講を十二月に延期。

・飲食を中止された寺院がある一方、時期や様子をみながら再開する寺院も多い。

・庫裏や台所にも声がマイクで聞こえるので、距離を取り分散してお聴聞いただく。

ご門徒の変化

・みんなに会うことの方が（心配よりも）楽しみ、という声があった。

・盆法座は例年以上の多数のお参り。ご門徒の皆さまに喜んでいただけ

た。
・お参りくださるか心配もあったが、法座の再開を待ち望んでいた方が多かった。十分な予防対策を行ったうえで法座を開座することが、門信徒の皆さまとつながる最良の場だと改めて感じた。

・持病を持っている人が気を付けておられる。

・家族や親戚が県外から帰ってこれないという理由で、お盆勤めや法事のキャンセルがあった。

・外出しにくくなった方々が、グループで参拝された。

・法座が休座となり、お聴聞できず寂しい日々を送られ「自分の中で、ご法座が大切な時間だったと気づかされた」というご門徒がおられる。

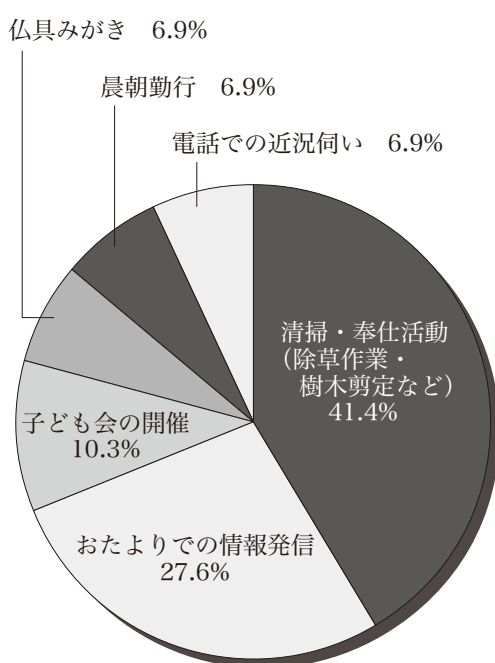
・ご門徒同士や、寺院とご門徒の関わりの時間は減ると思う。

・秋彼岸会が久しぶりの開座で、お参りを心配したが、いつもより参拝者が多く安心した。

・受付での体温測定も、測定方法がテレビなどでなじみがあるため、戸惑うことなく協力いただけた。

設問四

ご法座以外で、門信徒の皆さまとのつながりを保つ活動をしてもらったら、お教えください



※複数あったご回答の割合をグラフ化したものです

行事などの活動

・毎月第四土曜日をお参りの日とした。

・毎月第一日曜日にお晨朝を勤めている。

・月一回の女子会（手芸教室）を開いて、手芸とお茶会を実施（楽しみにされている様子）。

・念仏奉仕作業（年四回）、ボランティア（月二回）は計画通り実施し、終了後には雑談や交流の場を持つ。

- ・年七回の勉強会(自主活動)。
- ・仏教婦人会で、初参式や老人会などを開催。
- ・「無声映画の会」町内の文化団体から要請を受けて会場提供(地域の門信徒約八十名参加)。

- ・「地域の高校生JRC部による奉仕活動」本堂掃除と仏具磨き(六名参加)。
- ・奉仕作業後、境内で慰労会。

- ・三密にならないような地域の行事に、マスクを着け、積極的に参加。
- ・毎年の新年会。

- ・常斎参り(月命日)。

日々の取り組み

- ・月例会で胸の内を話し合い、それぞれが元気をもらったり笑顔が出たりした。
- ・ご命日や年忌法要などのお参りで、不安や苦言など、ご門徒のお話を聞くだけでも安心される。
- ・最近しばらく会っていない方に、おさがりなどをお持ちし、「どうしてる?」と顔を見に行っている。
- ・境内に開いた喫茶店が、地域の人々が気軽に立ち寄れる場となっている。そこでいろいろなおしゃべりに花が咲いている。
- ・いろいろなご事情で墓参りができないご門徒さんのお墓に、自分で育てた花をお供えし、その写真を送っている。
- ・お盆に合同廟の写真を撮り、LINEで写真を送ると喜ばれた。
- ・マスク不足のときに、手作りマスクを渡した。

布教・伝道活動

- ・住職のひとこと電話の開設(テレフォン法話のようなもの)。
- ・お取り越しで各家庭にお参り。
- ・「めぐみ」購読のお願い、「お盆」(小冊子)を盆参りで住職が配布。
- ・護持会費のご案内のとき、み教えについて書いた法話を送付。

情報発信

- ・ホームページの拡充(ご門徒向けページの開設)。

- ・毎月の案内葉書に一言添える。
- ・コロナ禍により在庫を抱えた近隣のお店や、ご門徒のお店の広告をお盆参りのご案内に同封して全門信徒に送付した。

設問五

門信徒の皆さまの不安に寄り添うための活動をしてもらいましたら、お教えください

声かけ

- ・台所のお手伝いをお願いしている方々に集まっていたく機会があったので、門徒さんへの様子伺いをお願いした。
- ・お一人で生活している方には、折々電話してみる。
- ・外出先で出会ったご門徒に声をかけて、元気を確認している。
- ・近隣のご門徒への案内状などは、住職が配り、声かけをしている。

案内・手紙

- ・暑中見舞いに「法座が開けず、寂しい思いをしている」ことを書いた。ご門徒から「葉書をもらったから法座の案内と思って喜んだが、違っていたので残念」というお返事をいただいた。
- ・遠方在住のご門徒への発行物の郵送回数を増やした。
- ・配布物と一緒に、感染予防の方法やPCR検査のこと、ウィルスのことなどの情報も届けて、正しい情報の入手と、主体的な判断を呼びかけている。
- ・お供えていただいたお菓子を入れた紙袋に法語を書き添えて渡したり、ご案内にも手書きで仏さまの教えを書いている。いずれは、病院や施設に入られた方に法語を書いた葉書を送らせていただければと思っている(お見舞いがないため)。

日常のコミュニケーション

- ・和顔を心掛けています。
- ・各家庭へのお参りのとき、お話を聞いている。
- ・時々、ご高齢の方が二三人来寺され、おしゃべりをして帰られる。
- ・時間の許す限り、お寺にご用事で来られた方と近況や悩みごとなどを話している。
- ・お寺に来られた方とコミュニケーションを取りながら、仏教の教えをお話している。
- ・門信徒のご自宅を訪問するときは、事前に知らせてマスクを付けて訪ねるようにしている。
- ・LINEでの相談窓口の開設。

掲示伝道

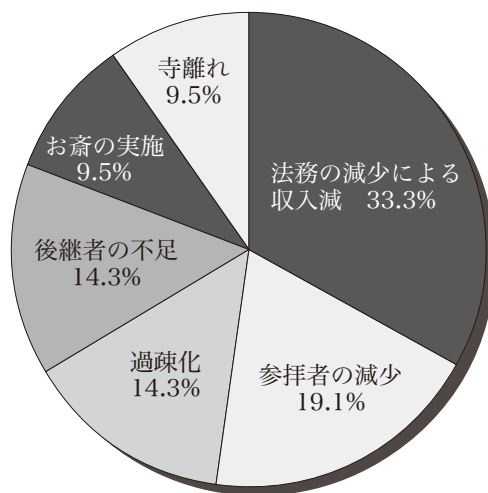
- ・宗派メッセージポスターを掲示。
- ・二週間に一度、地域の人と散歩をしている。掲示伝道を読んだり、スタンプラリーのカードにスタンプを押している。道中、話をすることで気が晴れるようだ。
- ・掲示板を手書きしているが、子どもにも足を止めてもらえるよう、文章に絵を添えている。

地域との関わり

- ・重点プロジェクト「貧困の克服に向けて」Dāna for World Peace「子どもたちを育むために」の活動によるご縁で、都市部からきている生徒から「お寺にお参りしたことがないから一度お参りしたい」という要望を受けた。
- ・編み物教室や手芸教室などが週一回開かれ、十人程度の人が感染対策を行いながら、活動を楽しんでいる。

設問六

現在、ご寺院の護持運営などにおいて、お困りのことや不安なことがありましたら、お教えください



※複数あったご回答の割合をグラフ化したものです



仏事（葬儀・法事など）

- ・葬儀・法事に対する考え方や形態が変化し、寺院や宗教に対する思いの醸成が困難。
- ・葬儀・法事が家族のみとなり、お子さんや親戚の方、ご縁のある方の仏縁がなくなつた。
- ・火葬場などで、火屋勤行が禁止されたり、葬式そのものが少人数となつたり、これが定着してしまうのが怖い。
- ・家族葬が増えたため、ご門徒の少ない寺院は困っている。

法要・布教伝道

- ・すべての活動が制限を強いられ、責任を求められて思うように活動できないのが現状。今年の報恩講の持ち方も不安。

・今まで通りの法要が開きにくい。薄氷を踏む思いで法要などを開いている。

・このままコロナ禍が終息しなければ、本年度は法座が開けない。開座できたとしても、参拝される方がおられるか不安。

・仏事・布教などの依頼が減っている。

・法座を再開したときに、以前お参りいただいた方々が再びお参りくださるか不安。

・法座の中止が続くと、寺院での法座はなくても普通と思われるそうで不安。

ご門徒との関わり

・住所変更した後、連絡がつかなくなったご門徒が出てきた。

・墓終いや離壇の増加。

・門信徒の後継者との関係をどのようにつくりあげていくか(特に離郷の方)。

・護持会費を納められない遠方のご門徒が増えているように感じる。

運営面

・ご門徒の高齢化及び門徒数の減少により、護持会費のお願いが難しくなった。

・過疎・高齢化が進む中、経済的な面から建物も維持(シロアリ・地震・豪雨・台風・本堂の屋根の傷みなど)が

難しく、護持運営、ひいては寺院存続が危ぶまれる。

・総代会や教化団体の会議すらままなら

なくなつた。

・今までは問題なかったが、教化団体(仏壮・仏婦など)の役員改選が不安。

・行事も思うように進まず、「やる気」ま

でも減退していきそう。



設問七

その他、みんなで考えていきたいことや共有していきたいことなどがありましたら、お教えください

寺族婦人会の活動

・組の寺族婦人会の活動も全くてきていない。

・コロナ禍における寺院での活動は難しいが、弱い立場にある一人親家庭への支援、アルバイトがなくなった学生さんへの支援など、寺族婦人会連盟として何かお役に立てたら良いと思う(募金など)。

・組の寺族婦人会でも、書面形式にすると良いと考えている(年間計画や三ヶ月ごとの計画など)。

・組全体のあり方や、仏教婦人会・寺族婦人会の活動の指針などを示していただけなものや、話し合いの場があると嬉しい(リモートでも良い)。

・先輩の坊主から指導いただいたことを次の世代にしっかりとバトンタッチするという自覚を持たねば…ご法義がすたるのは寺から、とよく聞く。

仏事(葬儀・法事など)

・葬儀が簡略化している。

・仏縁が減り、今後感染症と無関係のところでも仏事の簡略化が進んでいくのでは、と懸念される。

・この時期、自宅で家族葬をされた家があり、組内の皆さんも外からであるがお参りでき、とても心温かくなる葬儀だった。こんな時だからこそ自宅で葬儀を、とお勧めしている。

・「紹介して成立したカップルが、この秋自坊で仏前結婚式を予定しており、嬉しい」という寺院がある。

法座・布教伝道

・お聴聞の場を絶やさないご縁づくり（例えば、組内だけでなく近隣組外寺院との情報交換の場ができれば）。

・合同で法座を開く。

・お斎づくりが高齢化で難しくなっている。お斎を楽しむにしている人が多いので続けていきたいと思っているが、過渡期にきている。

・「しばらく法座は開かない」と思っていたが、このままだと何年も開けなくなってしまうそうなので、ウイルスとの共生を考えていかなければならない。

感染対策

・研修会などがすべて中止になると、必要な情報が入らない。感染症対策を行ったうえでのご法座の取り組み方など、意見交換の場があれば参加し、「何ができるか」を話し合っていきたい。

・法座、法要、通夜、葬儀、法事などのあり方や営み方、感染症対策。

・法座や法事でオンラインが導入されており、素晴らしいことと思うが、大切なものを壊していくのではないか。よく考えるべきではないか。

・コロナ禍で法座を開くことの不安や、皆さんが安心してお参りいただけるような良い考えがあれば情報として知りたい。

・コロナ禍をすべて抑制的に受け止めるのではなく、仏事などはお寺の広い空間を利用する呼びかけがあつていいのではないか。

・良い感染症対策や、それが成功したイベントや行事などを教えてほしい。

護持運営

・地域経済など、多角的に考えていく必要がある。

・門徒戸数が少ない寺院は存続が厳しくなる。大きな寺院のみを残していく方向も必要と考える。

・役員会で今後半年間の活動について話し合った。「ウイズコロナ」はしばらく続きそうなので、感染対策をして年度末までに一回は集まることにした。

・ボランティア活動や懇親会を中止した。

・変化の激しい時代背景の中、現在の社会実情に即した寺院のあり方。

・毎日の生活に不安な人の居場所になるような開かれた寺。

・皆さんがどのように護持運営されているか知りたい。

次世代のこと

・若い人たちに、そして、今の時代だからこそ、お念仏の教えをもっと身近に感じてもらうにはどうしたら良いか。

過疎・高齢化

・地域経済など、多角的に考えていく必要がある。

・今後、中山間地域では厳しい人口減少が待っている。

・過疎地域なので、これからどうなるのか、みんなで考えていきたい。

その他

・法座や法事がなく、ご門徒の皆さんは生活があり、皆が不安の中で時が過ぎるのをじつと我慢して日暮らしをしているように思う。

・他の寺院の寺族の方からお話を聞くことで、考えたり気づいたりという段階。

・ご法義の学びの場での再会が待ち遠しく思われる。

・感染を防ぎながら、どうやって法座を開いていくか、法事をお勤めしていくか、具体的な方法、手段を考える必要がある。

あ と が き

本紙の発行にあたり、各組委員からお寄せいただいたご回答を常任委員で取りまとめました。

「聞法の場」を残すため、それぞれのご寺院でさまざまな取り組みがなされています。

過疎・高齢化が進む中、将来に向けて、お寺や寺族婦人の「横のつながり」がますます大切になると思います。しかしながら、昨今の状況もあり、話し合う場が持ちにくい場面も増えてきました。そういう中で、本紙がその一助になれば幸いです。

本紙をご覧になり、ここには掲載されていない取り組みや対策、また、お気づきになられたことなどがありましたら、事務局までお知らせください。また改めて「寺婦のひろば」などでご紹介できればと思います。よろしく願いたします。